

米沢街道4 金山～桧原峠

金山～桧原峠の歴史と史跡

桧原湖北岸から北に街道が伸びます。金山集落北には、金鉱山の「水抜坑口」があります。北に進むと、砂防ダムの場合所には、江戸時代に桧原口留番所がありました。さらに、長井川に沿って進むと「鷹の巣一里塚」があります。東側は半分以上消滅していますが、西側は直径8.5メートル、高さ1.9メートルで残されています。さらに進むと、5月中旬には水芭蕉の大群落となる湿原があります。湿原の北、林道と車が通れない山道とに分かれます。それが旧米沢街道です。道幅は約3メートル、峠頂上までは徒歩約15分。標高1094メートルの桧原峠には、高さ約2メートルから3メートルの境塚2基があり、広場となっています。

『会津鑑』によると永禄7年（1564）4月、伊達輝宗は、石川但馬を派遣し1500人で桧原を攻めます。侵攻を察知した穴沢俊恒は、480人で桧原峠に空堀や柵を築き、撃退し伊達勢は173人が討死しました。永禄9（1566）年1月にも伊達勢1千人が桧原を攻めましたが、桧原より北の一ノ渡で穴沢氏が防戦し、伊達勢530人が討死しました。天正13年（1585）には政宗が侵攻し、峠の物見役が殺害され、穴沢氏は敗北しました。

直江兼続や伊能忠敬などもこの峠を通り、江戸時代、米沢と会津を結ぶ唯一の街道として会津と米沢の産物が往来しました。（文責 石田明夫）



1 「水抜坑口跡」

金山集落北側、街道西側にあります。集落内に精錬所跡もあります。



2 「鷹ノ巣一里塚」

若松からは9番目（約45分）の位置にある一里塚。片方だけで残っています。



3 「水芭蕉群落」

林道と米沢街道・桧原峠の分れ道南東にある大群落。5月中旬から下旬が見頃



4 「桧原峠の境塚」

峠頂上に東西に分かれて造られ、峠からは、米沢市街と米沢盆地が見えます。

